

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475101598		
法人名	社会福祉法人 青葉福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 青葉の風		
所在地	仙台市青葉区荒巻字三居沢1-16		
自己評価作成日	令和 5年 9月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 11月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お年寄りの尊厳と習慣をお守りすることを大切にしております。 三つの文化をお守りします。 1. 礼儀正しい文化 2. 物を大切にする文化 3. 忍耐強い文化</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは三居沢交通公園近くの広瀬川沿いにあり、緑の多い地域である。開設19年目の1ユニットで、法人の特別養護老人ホームの2階に併設され、避難訓練や納涼会を合同で実施している。介護経験年数の長い職員が多く、入居者一人ひとりの思いに寄り添って尊厳を大切に、否定せず、共感するケアに努めている。職員間の情報の共有が出来ており、褥瘡の予防や皮膚の保湿などのケアに活かされている。医療の処置が必要な方には、特養の看護職員が対応するなどの協力関係が出来ている。職員意見を取り入れた浴室の改修が来年予定されている。夜間想定避難訓練の実施を期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 青葉の風)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民との交流も含め、事業所独自の理念を掲げ、全職員が理解し実践の場で活かされている。理念である尊厳と習慣をお守りすることを念頭においたケアの実践。ケア方針を定めている。	開設以来の理念を継続しており、定期的な振り返りはしていない。事務所に掲示し、職員が目にしやすくなっている。職員は入居者の尊厳を大切に、否定はしないで共感することを日々のケアに活かしている。	理念は一年に一回以上は職員間で振り返りをして貰いたい。法人共通の理念に加え、ホーム独自の理念の検討を願いたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は同法人内の事業所との交流もあったが、コロナ感染症の観点から現在まで交流を控えていた。今年5月から5類へ移行となった為、コロナ感染状況を注視しながら同法人内の事業所との交流を考えている。	事業所近辺に住宅地が無く地域住民との交流は難しいが、敷地内の特別養護老人ホームの利用者と納涼会やレクリエーションの交流がある。コロナが収束後、法人の幼稚園児の来訪を期待している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営会議を活用している。会議の場では施設の取り組みなどを伝え、理解して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会の代表、主治医、地域包括支援センター、民生委員の方が参加。事業所からの報告、意見を頂いてケア、サービス向上に繋げている。	地域包括職員から「ヒヤリハットをもっと提出した方が良い」との意見があり、職員に周知した。家族代表から、コロナ感染対策への依頼があった。民生委員から「何か出来ることがあれば」との申し出があった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、不明な点があれば相談している。	市に介護保険の手続きや介護認定更新などの相談をしたり、転倒して骨折した方の事故報告をした。メール等で研修会の案内を貰っている。地域包括支援センターに待機者の相談をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行っている。理念である尊厳をお守りする観点からも身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「虐待防止・身体拘束委員会」は1年で3回の開催だった。研修会は今年4月に開設した同法人のホームと合同で行っている。帰宅願望のある方には付き添って歩くようにしている。転倒防止の為のセンサー使用は家族の了承を得ている。	委員会は3ヵ月毎、年4回の開催を目指し、身体拘束をしないケアを行うための対策を検討して欲しい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っている。理念である尊厳をお守りする観点からも身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	不適切なケアの前兆があれば、対応する職員を交代させるなどの対応をしている。管理者は職員とのコミュニケーションを取るよう心掛けている。家庭の事情などに応じてシフト変更をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関係することについては十分な説明と理解、納得が得られるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。毎年、ご家族様へアンケート実施。頂いた意見などを反映している。	遠方の家族からライン電話の要望があり、タブレットで対応した。「歩かせて」の家族の要望に、散歩やゴミ出しと一緒に行くようにしている。パンが好きな方には、家族が買ってきたパンを食べて貰っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の面談時や全体会議、事業計画書作成時に職員から意見を聞きながら反映している。	座位を保ちにくい方が安全に入浴できるよう、背もたれの角度を変えられるシャワーチェアを購入した。浴室の改修工事に向けて、リフト浴などの職員の意見を聞いている。食事を食べない方への対応を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の際に面談を行い、意見を汲み取り意欲をもって働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修を通して学ぶ機会を設けている。その他、経験不足の職員や個別の対応で悩まれている職員については都度、対応方法について説明し指導している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より同法人のグループホームはちまんの風と毎月合同で研修を行いサービス向上に努めている。	グループホーム協議会に加入している。敷地内にある特養と合同の防災訓練をしている。訪問歯科の歯科衛生士に口腔ケアの指導を受けたり、特養の看護職員に痰吸引の指導を受け、ケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境づくり意識し、1対1のコミュニケーションの場を設け意見を汲み取り反映し、本人が安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と信頼関係を築くために、面会時に施設内での様子や取り組みの報告、状態変化があった際には早めに報告をするように心がけている。また管理者を中心にご家族様の要望等を聞き相談しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族様と共に相談し合いながら、必要とされるサービスを見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	距離感を大切にしている。共に楽しみながらも支えあえる関係となるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、近況を報告し本人も交えながら楽しく過ごして頂けるよう必要に応じて会話の仲介も行っている。遠方のご家族へも定期的に電話での交流を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報をもとに出来る限り、今までの環境が保たれるように努力している。ご家族様と相談を行い、外出や交流が維持できるよう支援している。電話や手紙のやり取りも積極的に支援している。	大崎八幡宮が馴染みの場所である。歩いて自宅を見に行く方がいる。家族や幼稚園児の孫が面会に来た。3か月毎に訪問理美容師が来訪し、馴染みになっている。畑仕事をしていた方に収穫作業をしてもらった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性や性格を踏まえ、円滑な人間関係が保たれるように支援している。また利用者様同士の関係性が保たれるよう、必要に応じ職員が会話に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気兼ねなく相談して頂けるようお話ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や動作から意向を把握、言葉だけではなく更に奥に秘められている思いを汲み取る努力をしている。ご家族様からのお話も参考にして、利用者本位のケアプランになるように努めている。	入居者の生活歴やアセスメントを確認しながら、日々の話や家族からの聞き取りで思いを把握している。飲酒は医師や家族の了解があれば可能としている。意思表示が困難な方は表情やうなづき等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様からの情報や普段の生活の中から意向を汲み取れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・バイタルチェック表等を活用し状況を把握、適切なケアに努めている。毎日、出勤時に記録確認の徹底。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向を確認を行い、全職員でカンファレンスを実施。	ケアマネジャーが6か月毎に計画書を作成している。姉妹で入居している方の関係保持のため、食事の後に一緒に寛ぐことをプランに入れた。医師の指示で褥瘡の予防のため、夜間の体位交換を計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や変化に気付けるよう、記録は細かく記入するように努めている。ケアプランに沿ってサービスを行っており、日々の様子や会話の内容、表情など記載し介護計画の見直しの際に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様の要望を出来る限り反映している。柔軟な支援ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設との協同しながら支援している。フラワーセラピー、アニマルセラピー、保育園児との交流など利用者様が楽しみながら日々の暮らしの活力となるような活動を行うようにしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様が希望する病院への通院支援を行っている。またかかりつけ医による月1回の往診や相談など、必要時に連絡が取れる体制が整っている。	全員が協力医の訪問診療を受けている。訪問看護師が週1回、健康管理に来ている。特養の看護職員が点滴の処置をしている。専門医受診は家族や職員が対応している。訪問歯科が来訪して口腔ケアをしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のアルテイル青葉の看護師や契約している訪問看護にて健康状態の確認や相談、必要時に対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際や医師の説明時には職員も立ち合い、ご家族様が不安にならないようサポートしている。病院関係者へも普段の生活状況を伝え、ご家族様の希望に添いながら早期退院へ繋げており、施設への受け入れ体制も整えている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針に沿い、状態変化に合わせて段階的に書面での意向確認を行っている。主治医、訪問看護との連携を図りながら、ご本人様やご家族様の思いに添ったケアを心がけている。	重度化対応の指針が明文化され、入居時にホームが対応できるケアについて説明し、同意を得ている。状態の変化に合わせ、看取り介護の同意を得ている。今年も看取りがあり、職員間で状態と家族の思いを共有しケアした。死生観の職員研修を実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご本人様やご家族様が希望する病院への通院支援を行っている。また、かかりつけ医による月1回の往診や受診・緊急時など相談したいことがあれば、いつでも連絡取れる体制が整っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、マニュアルに沿って併設施設と合同で避難訓練を行っており、協力体制が整っている。	昼間想定避難訓練を併設の特養と合同で1回実施した。コロナ禍で1回は中止になった。改善点の記録があり、次回に活かして貰いたい。運営推進会議の議題に取り上げ、地域の方に取り組みを知らせてもらいたい。	ガイドラインに沿って、夜間想定を含む年2回の避難訓練の実施を望む。ホームは2階に位置しており、介護度の高い方の避難誘導を検討してもらいたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念である尊厳と習慣をお守りする観点からも一人ひとりの尊厳とプライバシーにも配慮したケアを行うように努めている。ご利用者様に失礼がないように心がけている。	名前に「さん」付で呼んでいる。居室には、ノックと声掛けをして了解を得てから入る。気づいた事はケース記録に記入して共有している。他の人の居室に入ろうとするトラブルなどには、職員が介入して対処している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いを汲み取り、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心ではなく、利用者様に合わせたケア(寄り添いケア)を実践するように心がけている。状況を把握したうえで、希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から身だしなみを整えるように配慮している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間を大切にしている。調理や片付けまで利用者様の能力に応じて一緒に行っている。	献立は職員が作成している。庭の野菜を収穫してもらい、料理に使っている。魚料理や揚げ物が好まれる。誕生日のメニューは食べたい物を聞いて作っている。特養と合同の夏祭りは、屋台形式で楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて、食事量・水分量を把握している。一人ひとりに合わせた食事形態の工夫や代替食の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを実施している。協力歯科医と連携を図り、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用いて排泄パターンが把握しやすいように工夫し、可能な限りトイレでの排泄支援を行っている。	夜間はポータブルトイレやオムツを使用したり、転倒防止の為、センサーを使用する方がいる。トイレ誘導の回数を見直して、リハパンが布パンツに改善した方がいる。便秘で下剤は極力使わないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないよう普段から食事の工夫、水分摂取を促している。主治医、訪問看護と相談しながら連携を図り対応を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々の習慣やタイミングを大切にするように努めている。個別浴としゆっくりと楽しんで入浴できるよう配慮している。季節に応じた菖蒲湯、ゆず湯も実施している。 ※浴室改装予定	入浴を好まない方には時間を置いて声掛けしたり、「足を洗いに行きましょう」等の声掛けをしているが、無理強いはいしない。重度の方に適したシャワーチェアを購入し、安全な入浴に繋げた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、安眠に繋がるよう個々に合わせて適度な活動を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員に薬の内容を周知確認して頂いている。服薬変更時は各職員へ都度周知しご家族様へ報告を行っている。服薬支援時には、二重の確認作業。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の場として利用者様と共に家事作業などを、会話を交えながら支援を行っている。嗜好品も個々に合わせて楽しんでいただけるように対応している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生まれ故郷や自宅、馴染みの場所への外出、お墓参り等、ご家族様のご協力を頂きながら個別ケアを実施している。コロナも5類へ移行した為、施設でも状況を注視しながら今後はドライブ、買い物、外食等の機会を作れるように検討。	南吉成や愛子方面にドライブに出かけた。ホーム周辺は緑が多く、三居沢不動尊まで歩く方や、来訪する家族と一緒に散歩する方がいる。庭の畑やベランダのプランターで育てている野菜の水遣りや収穫を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、いつでも使用出来るようにしている。ご家族様には定期的に預かり金の報告書にて確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、その都度、ご家族様等にご連絡し対応行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとの装飾や利用者様の作品などを飾っている。温度・湿度計を設置し確認しており、換気なども随時行っている。居間には和室もあり、馴染みの物などを配置している。	ホールには折り紙で作った花の作品などが飾られている。小上がりの和室があり、寝転がる場所になっている。新聞を読んだり、職員が持参する旅行雑誌を読むなどして寛いでいる。掃除は職員がしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは和室、ソファ、テーブル席を配置。それぞれ好きな場所でテレビを観たり新聞を読んだりと自由に過ごして頂けるように配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様とご相談し、使い慣れた物や馴染みのある家具を持ち込み使用して頂いており、ご本人が安心できる環境作りに努めている。	畳の居室とフローリングの居室があり、エアコンと洗面台が備え付けられている。入居時に家族と一緒に居室作りをして貰っている。ベッドや筆筒、テレビなどを持ち込み、家族の写真を飾って自分らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることを把握し、役割をもって生活して頂けるように努めている。		